

小精廬日誌

昭和十一年
十一月以降

特別

14

1919

625

35

40

45

50

176890

小島産日誌

昭和十一年十一月以降

十一月

一日

日

晴日本書海云今龍孫にあつた悔ふ又と青
 夫白鳥者若は鯉肝細中流を強候の遠程
 一泊を郵送す候に獻去り筒す、随筆の
 稿と終の時と是より十一時迄を伴ふて散策
 下谷の風月をに飲して切す。

晴風朝来懸肝糸至おと懸心丸 望月軍由
 印以男法崎より二十一日市田出せん、招待状
 列、日本勅業始り、未出農二此りと合併
 月つき株主合の通知書列、(十五)内子日休
 高砂屋を河を若干の吳時を膳心日食
 半に飲、之物、白鳥者者、一問、才一始、預
 金万圓引出す、五、三、中、其、後、法、結、納、の、日、を
 角谷家の都合より、四、口、と、定、め、石、塚、あ、り、の、地
 納品七揃く、江、崎、村、と、吉、と、決、ま、り、お、り、と、

榎原製

距離電話を通す。

明治節

晴今朝五時半強烈の地震あり、山田は心来務
 都は夕、十一、五、洲、全、利、未、高、崎、倉、に、結、納
 品を贈、山、谷、久、吹、男、を、招、ひ、結、納、の
 媒、的、と、任、頼、一、女、儀、議、を、得、新、名、の、三、福、に
 領、金、五、百、圓、法、納、品、一、共、世、帯、代、一、百、圓、親、類
 書、家、族、書、目、録、共、一、式、石、塚、方、為、持、造、

四日

時、記者大道等。三印、東洋回者、法も
所、一時間計、法、先、付、之、教、業、白、木、を、物、を
購、公、甚、其、所、に、酒、飲、し、し、未、一、時、向、分、午、睡、深、更
所、所、言、石、塚、を、結、納、の、式、終、り、結、婚、の、日、を
并、九、日、と、宣、め、り、し、と、電、報、列、文、

五日

以、朝、来、池、津、の、稿、を、終、り、正、午、に、あ、り、止、む
午、後、教、業、終、生、を、お、し、り、し、し、山、田、川、函、文、に

榎原製

簡、有、故、後、下、婢、電、も、一、杯、二、徳、利、来、森、一、兵
三、返、上、と、投、入、尾、信、林、の、柳、川、春、三、の、稿、を、讀、み、

六日

咳、日本、回、者、協、会、旅、法、十、二、月、雜、以、原
稿、と、考、す、在、形、乃、石、塚、に、り、一、簡、有、住、友、支、店
り、款、金、二、百、五、十、圓、引、出、す、山、田、川、政、文、山、田、信
作、手、紙、田、石、塚、先、結、婚、の、日、と、電、報、し、先、方、と
折、衝、せ、し、其、婚、約、家、の、前、母、曼、地、羅、の、運、而
三、題、す、聯、合、古、年、國、旅、法、記、者、團、打、春、有、其
功、有、年、一、月、雜、以、寄、稿、を、七、と、し、丹、美、原

亦もよむ。十一時先回付出遊資生堂、飯
一七ゆくの、文三事多し。清子を語り、之、及可成
確も、此文在書目と寄とある、五時紅毛坂の陸
合と踏ち、今廻睡合舞古、杉平頼壽伯余及
高田の古書壽と説き、種々特別の既感あり、
自から寤席下深と嘆め、鈴鼓と舞、七、締纏鞠
多しと語り、席口新築の日本屋敷より、今更
流出席、高田、余、杉平、田中、増田、井上、森、此月
八人也、高須、其、坊、中、も、来、方、山、島、と、寄
七、時、の、

七日

而、今日九時、以、早、壽、園、遊、入、成、事、出、王、の、遊
二、式、に、振、らん、此、を、七、行、り、其、相、来、雜、誌、を、年
二、寄、り、其、を、存、在、と、書、す、。 栗、浪、重、白、鳥、者
吾、来、沃、由、島、と、其、其、詩、の、作、成、情、記、と、記
二、十一、時、散、来、而、二、遊、ち、高、崎、尾、會、堂、に
飯、七、時、の、依、伯、仲、花、と、来、書、予、の、撰、稿
と、叙、り、書、誌、を、旋、徳、利、と、高、須、其、坊、中、
比、海、也、と、書、け、。 丹、吳、茂、来、沃、新、以、自、合、喜
三、次、縁、浪、の、千、續、ホ、り、つ、き、者、就、と、書、け、。

八日

日

昨、日本聯合青年團旅団青年部、此青年の自光
 と自批の二稿を寄す。井上辰九ら、これに對して
 も叔父の雑誌を寄す。前日、引つこき
 降子と居る之、松平伯と謝る。是れ親小方州
 在十一時迄と散る。由是二金と懸い。新右
 の三福、酒飲す。松平伯、函を寄す。後
 口獻去耳所、松平睡眠を得す。白鳥君を
 の清心施情記を讀む。

標原製

九日

昨、東洋負負、初早大出、欣部、刺文、二十
 二條、紀念品、代、出、田、村、未、即、月、軍、四
 行、家、後、増、う、つ、こ、懸、一、部、切、手、十、四、三、條、よ
 り、出、す、石、塚、こ、り、ま、い、角、谷、家、と、納、結、り、親、を
 の、往、還、を、報、す、先、を、代、り、お、生、散、策、先、御
 本、本、店、に、百、九、十、四、の、指、輪、を、贈、り、資、生、を、ま、よ
 午、お、り、と、物、書、金、五、百、山、中、一、部、り、支、店、に、款
 け、入、り、金、五、十、四、先、の、款、金、に、其、五、角、谷、を、結、婚
 式、日、う、つ、も、未、電、後、口、献、去、に、投、筒、小、不、事、振

書物甚多紙の同葉を持ち来り、遊業の務を終り
て又刻に到り、殆ど骨董店も余の取札の骨董洋
人の像似刻数葉の花紙一冊付来り。

十日

夜相来陸軍の務を促し、白鳥者亦十日訪
遊て彼の獻来品、山林豊雄七郎と判
り、大洲令北沢江報社も、押直亮と記由
来り、注交移の支店も、秋合る五日、因り出り、洋装
不用本交印りのき、磯部尾田川三伝歌書と

棟原製

又夜来小雨

十一日

雨朝来洋装不用本交印に附て、去るべきもの
出二百五十許、と取ら、陰々、天の件上、神卷
軒を汚し、廿三日、信結、或は口所、七奉什、宮人
を、開く件、のそ、種々、お合を、こし、神殿、或、場、寺
と、檢、合、風、目、の、録、七、物、の、記、の、其、田、初、日、男
し、秋、果、を、野、う、者、の、森、一、品、を、し、三、不、去、山、崎
覺、次、中、の、し、は、甚、だ、繁、華、談、話、を、或、談、也

説を讀み時を移す、山田氏に云々

十七日

晴、日本郵船のり、配給金よりき照合状を呈す、
十二月十日國府津着、貨物に掛ける積込及の合
合、四方舟船も振る、白鳥者共々、未だ、金万
五十圓位、及船のりも、積金引出す、角谷も廿圓入
束を報へ、未だ、阪上山花も注射を受く、皇清市
邊田是納、金十圓為替を送り、島原田の注文
を呈す、東京朝日新聞に記る、白鳥取次、馬場

標原製

予の回函法を景記して、午後、吉任少三郎
高祝物を携きて、来訪、難儀、切手、五丁目、下林、
惟、東来、土時、函出、生中、坊、方、に、お、お、を、お、お、
日、入、集、に、臨、み、文、白、も、祝、品、利、未、

十八日

晴、朝来、難儀、と、着、下、す、早、大、佛、也、東、西、文、を、取、長
吉、江、春、移、り、し、日、文、子、創、修、湯、十、五、を、一、紀、念、祭、に
つ、き、未、間、余、の、出、方、者、を、お、お、の、り、政、界、往、来、協
利、小、林、以、三、三、市、の、成、信、公、に、長、科、任、の、件、に、於、て、未、だ、

十一時散策新道に由りて吹雪の天吹男東の馬路
日暮婚儀の打合ふ多し時分を暮らすゆ人住の
部と未出白風任屋の未

十九日

雨早朝市立法を有る、天尾昇る迎著を好く
来ふ宗家并井上辰九郎支白未へと披露
りふりて野原の方へ来り白鳥者考く隨着
り原宿一過を定む、ゆ人住出部と茶を有
ま、田中敏積出師部の内市にのき来旅、不保

榎原製

三々しと未高、原久一りしと評本大トトイ全
集日記の部を寄せ来り午後散策東古玩を
焼い光り馬ラジジの襪をを飾ふ、書栞鏡
治と味香漬一栞と寄せ来り

二十日

晴、今朝角谷母子到着へき先上世野に出迎
ぬ、立修鏡二原久一り、簡支新湯東未へ
り祝ふ到来、白木危しと祝しと錦桐を贈
り、二三年来茶あんど元込りのき、皆謝し

新く、干徳三時前谷母子は納品并ニ式服代加雜
品代千圓(買取)外ニ祝儀の祝者を持ち来り、中
途第一祝儀を高くし、来り五時迄も、千圓未だハ日
明一家の儀婚儀あり、臨む、百谷母子ニ臨み、公を
譽らし、五十島旗鳴り、祝物(和菓子)信濃代カ
し、且、同新丹吳より、白羽ニ奉り来

二十二日 日

明、今朝光を伴ひ、枝宿舎のりり、よの葉あひを
注ぎ、代金、千圓拂、万返、持用、ちりり、人衆

標原製

紗十三枚、猪心入、万十圓拂込、先母、三十
圓拂、お世の起、公を、二時を、贈り、和圓辰
焼く、舞臺、昨、多、午、お、り、ち、の、角
谷、五、三、次、り、と、贈り、物、を、贈り、る、祝状、来り、
今朝、来、新、物、病、を、多、の、熱、あ、う、伊、月、医、生、を、ん
法、奉、せ、し、ま、坂、の、祝、者、来、り、人、を、倒、れ、を、終、日
庭、園、と、掃、除、せ、し、ま、

二十三日

新嘗祭

明、凡、々、新、嘗、祭、の、半、出、り、を、送、り、ま、其、時、に、

祝を袴地刺来、坂口石塚知事手保、来り依那
信丸馬廻控も到り、午後一時形平左衛門到り、二時
より神前ニ誓約式を行ふ、時刻前形平の父高
式内宗利右衛門、双方祝儀十二人、式終つて高左衛門
の席次と定め入難務と云ふ、定刻五時、高左衛門
と高左衛門の客席列、来り高左衛門高左衛門
宗家夫人去任杉本冬夫人井上正九郎夫人、高左衛門夫人、
小川江村一等三十名、五時半開宴、夫吹奏、舞踏、
しりとり、茶会と云ふ、涼況と云ふ、高左衛門祝儀を
述べ、清り、撤宴、一時計雑談の後、退散、舞踏、

榎原製

夫婦、その家の来り、挨拶の後、高左衛門の病、高左衛門
高左衛門の病、高左衛門の病、高左衛門の病、高左衛門の病、
つぎ、其の準備を為す、各所より祝電州へ、

二十四日

時、在田善次郎、舞儀廿八日と云ふ表(安比本龍寺)住
友部り、款金七百圓引出す、角谷夫婦、日勝次
郎、高左衛門、石塚日勝(2)のとき、置酒、午膳を喰食す、
形平、新流、幼定、四角七十二圓、神前儀費、
舞臺費、角谷、角谷、角谷、角谷、角谷、角谷、角谷、角谷、

八分二上、伊月を祀き千燈と云ふ、空母看度
の考、月あり今、夜平の夜、病す、相比奈、貞一、
北、中、紙、官、漢、三、関、三、ハ、コ、レ、ト、を、寄、を、来、り、
角、谷、紙、次、郎、に、相、毫、三、紙、並、不

二十五日

成村島瑞堆の訃利、吊悼、有、報、と、見、し
時、此、を、も、香、を、好、く、下、林、久、雄、角、谷、紙、我、
大、正、四、年、も、来、出、丸、ビ、ハ、の、物、を、贈、り、又、
高、崎、尾、に、夫、吹、込、に、預、け、交、拍、を、贈、り、あ、の、来、
此、中、葬、儀、に、持、参、の、縁、者、を、贈、り、言、ひ、

棟原製

屋、倉、物、に、致、し、申、上、り、又、吹、込、来、出、大、城、
朝、日、新、今、も、地、董、の、寄、附、る、来、の、来、の、寄、
田、保、是、社、も、也、四、年、儀、の、次、才、也、と、送、り、来、り、
西、村、文、則、も、雜、池、在、洋、趣、味、の、寄、附、を、も、と、の、来、り、
金、三、百、三、十、圓、家、内、内、予、三、六、八、付、丹、足、六、原、亦、出、交、
七、報、一、来、又、者、婦、込、能、く、宗、家、も、自、撰、の、雜、子、
七、報、一、来、後、十、時、外、積、者、也、也、の、来、り、對、す、
二、日、獨、結、約、の、大、江、を、う、じ、オ、の、故、正、心、聴、く

二十七日

昨今朝光口休姪婦の香を取らば大吟家
 を訪ふに挨拶し謝儀を白猪緬一匹を贈る
 日右圖書院施法に寄るを原村の校正を
 求むるに五手一校を授けし東洋紋味
 二枚をさし隨筆起稿の旨を坂口献五兼
 南谷記族玉木左衛門と申す迄伊月未
 診午後舟吳原平舟泊多時法派の
 後形三枚に到り此を呈し答へ時合
 今更一日紅葉館主人より根詰り書
 執利の(十二月七日)

藤原製

二十七日

昨故口獻書南谷記族玉木左衛門未簡致法派一
 部を物と辨るに河部宣之介身法押
 書並に持手古のしの杖を典ふ先生石保
 三より書す謝礼を自能身宛五十四
 為持者今夜早大三五令一先輩校なりと
 陶々書すに扱へんは七差又生し断り午時
 初より到り用を弁し先とれと散果紙生三噴
 一上のと行つ物也旧書後開と得七雪の朝
 の思ひ出と兼し未定かき泰東書道院の

勝田圭二郎より十本入羊羹と題り来た

二十八日

晴、安田長次より奉儀ありつと、早朝人を俵にし
香一甚を贈り、伴儀ははるも出立すみ、つら
うハ解ちを踏らる、賦産、安田合の手持つらつき
内、該より雪の朝、一箱を渡りて大改、改の
囀、今、今朝投郵、日本郵船より五合の
既、高金利、大吹有三、大の事を、海山利、名
古屋、五、別、他、所、負、外、谷、正、其、の、痛、と、一、小

藤原製

切と押、愛し七、投す、午後、築地本願寺に赴
き、安田長次、中、の、告、別、式、臨、む、余、七、一、時、間
以、侍、立、今、弄、者、一、萬、二、千、と、注、せ、ら、る、不、存
心、の、も、と、来、也

二十九日

日

晴、田村壯二より、有、の、文、の、場、合、の、理、と、告、し、傳、は
橋、上、受、流、其、他、の、報、告、と、な、り、結、婚、者、其、の
股、分、助、金、を、五、千、五、百、圓、内、人、に、交、付、首
公、弄、し、次、も、函、名、列、々、村、山、秋、滿、河、外、と

夏目支那集の二十時迄を待たせしむる墓の
 久吹久の墓を辰し、新石の舟並に新友庄
 三酒舎しと伺へる、角谷をいふ余が親戚と對する
 贈り物文三と号してある、結婚者の用仕掛板の
 左の如し

一

由行

四万五千圓

四十五圓

百圓

式并に

授養會金圓

授養會金圓

送花月信編年約

標原製

二万五千圓

百圓

四十四圓

百五十圓

五十四圓

七圓

八圓

二十圓

廿二圓

授養會金圓

久吹集の礼

久吹集の礼

石塚三郎の遺物

角部平代

印刷代

徳島支那

沈黙の代物

沈黙の代物

志し居掃

明、白鳥省吾、洲大守、角谷勝次、井上通之
丞、果書、又舟崎仁一、果書、散策丸
ビル、古内、果書、箱、一、李朝、刺、花、瓶、他、の
一、花、唐、燒、洋、船、模、花、瓶、丸、珠、串、也
此、價、四、十、五、圓、也、下、谷、の、月、日、に、飲、池、に
瑞、丹、月、並、鋪、の、三、音、佛、部、の、功、名、を、婚、の
七、切、り、丹、六、房、平、一、事、の、三、男、禮、三、回、作
早、稻、田、の、冬、出、假、部、創、立、五、十、年、紀、念、に、銀
製、ス、プ、リ、ン、を、打、贈、り、大、日、本、印、創、立、社、洗、合
一、十、八、日、通、知、利、の、丹、六、と、難、の、納、屋、表、を

棟原製

贈る。

二日

明、森、本、省、吾、院、と、余、の、居、村、の、校、会、を、求、め、取
り、一、校、に、送、り、関、り、し、果、書、家、什、日、の
を、併、り、一、切、り、果、書、二、百、圓、登、録、不、協、と、し、久、吹
夫、妻、の、行、昨、房、舞、又、島、三、来、の、久、吹、の、あ、と
り、ゆ、母、と、合、法、は、ゆ、の、実、家、に、ゆ、り、唐、書、を、
せん、と、と、協、議、す、夫、吹、夫、婦、と、午、夜、を、大、
三、時、に、む、り、あ、る、日、即、ち、為、六、百、圓、主、持、大、坂、朝

日よ未書。婚儀迄禮物緋凡名物十数寄致く
小包身送。

三日

昨山田内侍御事、復心合本紀古山算寄切手
十田路より、坂口故主、結崎の湯の世話と御し
口天崎を賜ふ。朝来随筆の至好と教書し、
御耳目二る。投行の古好漸甘く成り、白鳥
一投部、数葉三紙、物を籍心書付る。至
二段と御し、午後橋の末之人、月形力の

標原製

淡衣の後おの、酒切十田路より、伊月未送
病婦と、轉地を勅む、昂空増築を百八十段
昂平元を拂納、文蔵奉社、も未出、回書致
協合、字を賜ふ。随筆の、枝心招到書。

四日

昨、園寺館、施徳くの寄、箱枝心招一校の
上投郵、は物病状より、き、南谷喜三次、并
頂口献書、書状を賜ふ、五十吟、敬申、内祝
の物も賜ふ、湯山書、三の、湯山書、書幅

ニ赴直陸洋壽三ノ。三有之の書幾ル余の題
を抄し、土波部も軍考。百五十四号も、甲寅田
書道不令。委更。十一日の回令。午日押書
と花品の陳と抄。午後散策丸じル。松
未子朝の辰砂花瓶と勝。價廿五日也。阪口
献去。且。神。市。回。出。路。を。回。去
目録と定。五。年。の。一。開。賀。二。五。周。年。紀。念。と
一。七。橋。田。義。一。比。路。路。近。礼。送。一。比。物。を。路。今。取
比。月。軍。田。一。江。葉。終。一。招。一。早。大。取。一
符。事。壽。と。共。に

標原製

五日

以。白。馬。者。貴。臨。洋。壽。三。日。本。高。業
路。の。以。條。の。喜。七。一。と。来。言。中。心。飲
況。も。祝。物。を。路。も。以。條。の。一。魁。到。集。一
以。所。實。母。多。一。且。均。回。更。一。上。京。と。決。ま
十一時先を伴。家を出。九。日。の。休
息。酒。飲。し。十二時十五分。汽。車。一
投。い。回。府。の。者。田。別。在。一。松。元。行。く
車。中。田。一。松。元。乃。加。島。路。一。大。橋
費。一。今。一。大。船。一。尾。崎。行。作。入。来

この古田一く板えりき色尾崎野、紙牛を
予、撰抄も紙に紙と示す、尾崎の校友との
忠一平と私腹巻を更一名、後、定刻、四角、
着、年日、古田、思入、一、回、自動、車、の、香
實在、赴く、古田、以、及、土、名、合、合、志、き、り、の、心、を、
す、由、為、久、寛、七、板、え、ん、り、き、色、病、の、為、り、久、
一、の、心、を、成、る、り、し、地、志、撰、抄、を、り、し、又
序、三、把、主、毛、喜、田、の、花、幅、と、長、紙、一、幅、
の、紙、言、と、喜、田、八、時、の、汽、車、一、り、と、地、志、撰、
く、喜、田、一、り、と、喜、田、洋、の、喜、田、月、吐、鶴、回

棟原製

一幅を贈らふ、加藤八十三、尾崎七十八、喜田
六十八、余の甲を七十七歳也

六日

日

所、吉田、喜、田、と、喜、田、十四、日、錦、衣、に、板、え、り、
喜、田、の、喜、田、喜、田、の、板、え、り、喜、田、二
一、回、に、喜、田、喜、田、在、り、喜、田、の、板、え、り、喜、田、
を、授、け、白、鳥、喜、田、喜、田、長、紙、の、互、尊、二、
庫、割、設、者、喜、田、本、喜、田、八、所、死、云、つ、き、吊、状、
を、喜、田、喜、田、喜、田、喜、田、喜、田、喜、田、喜、田、
す、

利の及の善法中、善法は金剛改と持ち来り
来り

九日

昨日の母今朝ははる来着、早大の書道部、
出陣の泥板古板を捜出色紙二枚相見、角谷
妻三次も来色、茶所もいふ多き、角谷
を呼ぶて、出陣の(おむの)より、酒をいふ
の、おむの(おむの)より、酒をいふ
角谷も来り、おむの(おむの)より、酒をいふ

横濱製

あり、良田場一祖、母十三回忘るる、物を貯る来り
早大新校及名の、海利の、おむの(おむの)より、酒をいふ
角谷も来り、おむの(おむの)より、酒をいふ

十日

昨日、来りて、玉石回架の、小品棚を、優等の小骨
董約百、取り別け、一、納め、紛乱、備へ、
英市の、統制、問題、紛糾、して、退位、の、悲、憤、す、を、生、す
この、朝、昨日、の、おむの(おむの)より、酒をいふ、
係野人の、し、こ、フ、ヤ、ン、と、い、ふ、米、田、の、年、長、婦、人、也、因、り

二六引つ、き来、早大書道、展、陳列の、各の家
花五九點、貸付、冊、其、原、亦、と、春、志、午、後
散策、東、苑、書、房、と、号、焚、り、し、余、の、死、者、と、入
貼、付、ま、さ、し、印、箋、三、千、の、全、の、換、印、を、求、め、得、る、
并、に、由、務、有、く、出、政、局、の、湖、中、と、も、と、り、大、隈、大、
一、例、年、道、行、法、可、換、引、二、尾、を、お、お、さ、る、

十一日

晴、又、の、場、所、と、編、纂、中、の、英、文、大、日、本、北、海、道
鄂、印、刷、成、る、時、年、一、九、二、倍、す、余、の、お、人、北、海

横濱製

道、行、を、勸、め、る、文、の、取、り、ま、り、園、丁、二、八、引、つ、き、
来、り、お、り、の、様、子、を、後、引、代、十、四、回、を、路、上、
送、り、お、り、日本郵政、而、し、て、亦、お、り、金、十、日、利、子、
十一、時、引、お、り、散、策、三、福、と、酒、飲、を、做、
後、前、時、迄、念、池、部、郵、便、局、長、お、り、并、お、り、
印、を、と、り、お、り、日本郵政、の、身、前、お、り、換、印、の、上、
三、千、枚、の、印、紙、と、お、り、局、を、東、苑、を、お、り、お、り、
送、り、お、り、お、り、送、り、お、り、一、匹、引、来、り、夜、未、
お、り、

夜より懸肝紙の校合揃り二万夏三万夏
と連達候事も別来根岸銀次り廿日
錦紙にて四万を一つと通紙刊

十五

晴朝未迄著の校合没頭し五十夏計の校合
未迄出候方送り四五の難問に揃り早大生
既解し候所刊服部嘉吉の候答書と送候
名を以て承り候久竹内嘉吉の候答書と送候
一〇此と題する冊果しと白米一俵利来

因丁二人引つゝき来る。直心舟美外五家へ尋
若者荒海甚ましく候と承り。冊果し白馬
根岸三箇末午後舟崎仁一と紙味美と船の
荷焼を承り候。船事も校合し又湯の
居候事と承り候。日方の言と利来

十六

晴朝丁二人引つゝき来る。朝来校合没頭候上
此花も注釈と送書。高江由定舟田休揚会
候事承り。冊果し并に宋本も送川を

寄る未の去年後を余の寄るの決心を承り
承りて互に校しむや、午後銀座を散策し
ゆき後難所と著し、物に性六と牡蠣を
贈り未の夜十二時眠るを睡眠と得る福酒
を温め三時漸く眠る。

十七日

朝未絶筆を校合しし是也。夏久一冊を
大下几スト介全集一冊刊来、所より送るに
リ、新多活殺剣」と寄る。市川左團次と
り未書、困了二人未、舟崎仁一と依頼

標原製

の件このき日本又油の中四機本奥田守多物と簡
す、早稲田の各一冊を余の寄る二巻を
贈り未の冊共坊原と湖とを寄る。冊共民本
初任友の扶桑海上浮陰と新報決定を
報す。白鳥者寄る。未書

十八日

順風、以神宮聖書集共代二十六日拂角白
鳥者寄る。巻より冊共三巻を寄る。未書。校口
敵まゝと懐川と寄る。未書。敵後如是。是

徳又産... 既後先賢墳墓誌(外二篇)と銘
十一時お出... 白木庵に異
服と銘ありゆ... 今日日比谷の美松に徳志令
のふり... 電氣機カスタンド
を充り... 贈る... 大日本印刷...
既由年七令五屋利... 今朝未氣候表此
春の如く温暖... 地窓... 氣を以て... 夜...
り...
十九日

雨... 温暖也... 大坂の美術日報... 今春井石
童... 飛大... 大洲給... 既... 住友...
り... 金... 印刷... 中... 十... 既...
入... 金... 年... 拂... 内... 交... 任...
年... 三... 万... 日... 定... 既... 金... 既... 徳... 傳... 三...
... 考... 物... 利... の... 主... 何... 方... ... 未... 出... 高... 田... 森... 陽...
... 物... を... 既... 了... 未... 了... 迄... を... 三... 版... と... 物... と... 誌...
... 以... 深... 吾... 所... と... 酒... 飲... ... 均... ... 矣... 田... 善... 吹... 子...
... 矣... 同... 一... ... 未... 出... 廿... 三... 日... 矣... 今... 既... 既... 矣... 園... 丁...
... 矣... 矣... 矣...

二十日

雨、休宿行、此、と、堤、川、利、成、
引、と、お、く、
池、谷、
石、
栗、
丁、
雪、

二十一日

榎原製

雪、朝、未、始、
山、
舟、
毫、
因、
帝、
雪、

二十二日

吹、
吹、

今雜法も全の寄附金六十圓利未金二十圓
光の解金に當り、沙彌に相と贈るに三福と酒の
方、大法家にも寄附金あり、改に定る久下
方、物を贈る、數柑子二十株、右に贈る、酒の
一、圓丁を以て酒を種くし、雜法に
東京に石角春之助とて、發行を求め、
二十圓の寄附金と、贈る寄附金、大坂朝日
新聞と寄附金二十圓、利未

二十三日

藤原製

吉丹吳民の物、右のき、右の出、
東清重とあり、今、寄附金六十圓、
利未、右の、
美濃、右の、
史、全、右の、
中、太、右の、
七、回、鳥、右の、
度、右の、
祝、右の、
今、美、右の、

かりの人の口衆也。常盤や大宅南楚等、西一、東一、火災
社、三人合す、あつた、洋の市、の、法、法、と、や、り、

二十四日

時、任、友、知、り、支、倉、と、平、の、積、金、勘、定、に、尻、付
日附、二千七十四圓六十三錢と報し、未、六、才、一
以、り、積、金、九、百、圓、級、也、山、田、福、吉、出、取、部、の
云、係、後、に、昇、任、と、つ、き、松、林、抄、の、巻、あ、り、ま、り、本、日
議、合、の、後、瑞、々、と、召、集、早、稲、田、濱、割、場、の、り、を、
四、三、割、場、運、送、致、意、也、利、未、干、後、積、集、松、林

棟原製

ふ、の、如、盤、と、大、銀、と、精、入、有、名、法、者、外、二、三、家、も、し
社、と、定、寄、と、も、さ、り、因、了、未、と、り、

二十五日 大正天皇祭

時、朝、未、多、好、と、著、し、江、戸、と、在、祭、社、に、不、角
春、之、時、に、投、刺、し、村、山、神、の、由、り、お、れ、と、祭、り
、東、筑、書、居、る、と、五、十、員、力、の、我、執、轉、り、記
利、未、干、後、お、出、取、部、を、致、意、し、七、四、三、圓
下、二、人、来、り、松、の、雪、圍、ハ、の、繩、と、結、ぶ、白、鳥
有、名、投、刺、間、投、刺、為、し、申、の、訴、利、也、

五十六日方の宿舎を未の十一時に出遊、此處を
憐い風月堂に宿し、此處に後入能保を
著す、芝田宿に依りて解き、有刺を
形作、山崎物故を言及、未の金の方を
と徴し、未の金を所會自派の切者名とて表彰
状并、感謝状、他人名杯と添くを贈り、未の
人を御免終日薪と割る。

二十八日

晴りの地、宿伊豆の形、起り、持参方、くわ、夫日
未の宿舎に、一月の歌、有候座、扱、生田七

棟原製

印を、塩辛を、移り、未の、雜物を、未の、時を、移り、
儒より、佛壇に、漢經、先考、忌辰を、毎日の、し、也
午後、此、世、教、衆、

二十九日

晴、近江、協、合、と、前、時、男、郵便、創、書、法、を、移、未
二、文、の、中、と、移、り、未の、物、代、十九、日、の、書、法、佛
文、と、新、婚、の、用、を、代、十、日、の、佛、入、月、を
二、段、七、物、を、雜、法、キ、ン、ク、を、海、物、刺、未
午、尾、田、宿、と、難、の、以、結、一、移、刺、未、雜、物、を、移、也

時と移す、文三よ、二十日、交時、宇尾の、海と、
是より、あの、但、是、記、と、ち、木、更、来、り、市、が、同
社の、今、迄、女、の、進、悼、舞、入、寄、成、し、り、と、ぬ、し、麻
の、ハ、ン、ケ、ク、を、打、を、終、ら、る、為、向、形、の、栗、林、と、
藤、と、離、り、来

三十日

所、早、中、校、を、終、す、一、堂、校、例、授、り、き、来、日、社、之
今、と、前、く、件、の、き、来、決、奉、来、出、道、流、を、御、金
と、寄、せ、ま、る、舞、肝、取、出、果、午、時、白、鳥、と、之、冊

藤原製

為、持、考、さ、り、測、耳、目、を、御、記、山、度、り、来、り、全、新
の、校、教、計、算、を、張、り、此、多、り、あり、白、鳥、二、冊、と、今
津、ハ、一、と、物、を、張、り、来、り、午、後、教、算、日、本、格
の、骨、骨、骨、骨、ハ、仲、遠、三、若、を、舞、り

三十一日

寺、に、行、り、し、山、雨、ぬ、り、は、友、お、り、ま、る、と、福、心
定、則、終、全、と、若、考、の、と、今、の、と、更、り、来、り、身
と、目、と、終、り、利、子、と、若、考、の、と、三、百、四、十
甲、白、た、交、五、十、四、の、今、と、七、十、二、百、五、十、二、千、四

相馬勲元記念出版の権将大文と云ふ事

政界往來に隨筆を二篇を云ふ事

一月廿一日泉嶽道解散せしむ

雜誌専志録に余の投稿仰出自慢と致す

二月

二月二日福田鬼外ノ致送と云ふ事

富山地方百科辞典に泉嶽の一項を寄

稿

一月廿六日行内道達の法案に臨む今亦永

カラフ

概論の志入序を寄す亦権巻を也す

二月七日徳文社出版の春城閑話の出版

届又調印午却に捺印す

二月十日朝大腸カタルと病名三〇同臥す

東西の施設聚楽の形築紀念陳列に於て是

遺墨二十数點貸付

政治往來に隨筆十冊しつことを云ふ事

太田芳三ノ死志二月廿一日

二月廿六日朝不祥事起り陸軍一古年將

校教諭を企て首相内府為相海色教諭

徳川頼元侍従長を殺す戒嚴令布か
此節の日廿九日つゝき兵火と交へず鶴ヶ島
へ三四首お牧中内府無事

高田房より中村全集出版つゞき一巻二文を
寄す

日本田方彼流流の噂と云々十一月朔日
都地兼の字の箱を流す

書物展覧社と云余の挿絵地兼を出
版す徳百頁三百

廣田前外相大命を拜し、新田園の組織

榎原製

又恒也、吾日河の飛屋も漸々成る二月九日

公村一大少の部利

丸善の字の燈洲六十年と云、近境設を
しと云ふ

他々兼頼山陽の政収に際し序を以て三月十日

三月廿一日紅葉館に春城分と云ふと云、近利
地兼と押巻を令其に領つ

十五日令其と熱海と云ふ今の島に建設の
所、出回りの成島柳北の碑と云ふ

今津八一と云金吾の同利来十数年及今の別荘

日住まゝ字湖金也

新文の回款一はる其日この囀に寄て客の

春候今余の長寿を祝一銀五七兩り来

早大出の部も余の寄てハモ慰言金の

三千圓銘收 四月九

右の四千圓光名義を堂切預金として預け

入

化淑雅死云

五月十日大隈延子の三子等味云

五月廿三日一はる其日この囀に寄て客の

藤原製

を予も新給に於ては此の如くは其も

六月一日深川の清海に於て

頃所今廿四年に於て金持の事の

と書き置

随者も鞍山湯政行所成

初更し其の囀に依り七月三日の

と書き置

その如く囀に依り其の如く

予も其の如く

七月十九日新河原町に遊り物去
去、一泊新河原町に遊り物去

七月十九日散策時のかきと活弁

七月十九日大徳寺にて行々文の修會 活弁
今更々余の如き者科任を重んずるは
り誠哉と云ふ一功の積むべき事

七月廿日とも昔 舟に際定法習をり

五十七日坊地米収獲七十九日御免

淨念寺在旨より客の御まゝ二十日也納
行

棟原製

七月廿日中山流舟任者を訪す

り活弁命社長文(送)吉田孝人社長に科任

隨筆三則雜誌雑誌の復刊

出版新らしくも午多の思ふ所全所の
り録ぬい月也

白鳥者本坊在末宛者より早大八家の

隨筆を出さんとす一冊の控申を請ふ

今更更々平素の行の難所御免の
ん

新誌塔影にあ田家の深き園記を案

支

徳業三三局能法報又ニ云あり

出政部を歴省金の由千尋る向昭ぬ

老出云あり

難法推希に梅干と難節の一ニ云あり

八月十九日ゆふ中、心再片十のと好を略々

回復

石塚三のやを成しと昂し津又動江の徒婿交

海開如の月初旬

海合し海に片激の所と寺とゆをゆり

榎原製

東京日とのホムム、ういフに流去と夏休言高
の二稿も定あり

高島巴三のや、廣井重次、中鉢美の死云
九月廿六日

江戸人の江戸に死に嘔てえん松波海士の、目的き
の垣覗きいす

真崎桂次りしと隠退を報く来

平山あめ刺上五千の記念をいす

平大出政部を歴省金の由千尋る向昭ぬ

十月十百克城攻く勢く暮冬を希に

十月廿二日

十月廿二日 夜に時放送の音の響きありては選考の思ひ出を語る

十月廿三日 創立五十年記念の集まりありて来る 十月十日

十一月七日 秋葉を巻いて二式 并に祝賀会 におくも実天よりさく序

十月廿三日 秋葉を巻いて二式 并に祝賀会 におくも実天よりさく序

十月廿三日 秋葉を巻いて二式 并に祝賀会 におくも実天よりさく序

榎原製

空のす

秋の南谷のめをぶくくつきのまのむけのむけ
歳末に集りて 回家の田内容と調査せしめ
其の報を刊する 大伴差をあらわす

秋の南谷のめをぶくくつきのまのむけのむけ
歳末に集りて 回家の田内容と調査せしめ
其の報を刊する 大伴差をあらわす

秋の南谷のめをぶくくつきのまのむけのむけ
歳末に集りて 回家の田内容と調査せしめ
其の報を刊する 大伴差をあらわす

秋の南谷のめをぶくくつきのまのむけのむけ
歳末に集りて 回家の田内容と調査せしめ
其の報を刊する 大伴差をあらわす

る回略々

十一月廿三日(正学塾)移住の通干後二時於長巻船と
於之先づ神前(坂巻)を行ひ五時(と)於之(の)家
を閉く未(今)三十二名、此(夜)も(は)始(初)め(は)可(可)し
長(外)の(不)幸(也)

翌(日)以(前)の(家)族(を)余(の)家(に)招(飲)

十一月廿五日(村崎)勤(雄)死(す)

大(波)初(日)の(晚)夜(一)雪(り)相(一)合(を)定(め)り

十一月廿六日(安田)の(嗣)子(の)相(う)り(を)案(定)し(本)館(考)

日(奔)張(と)名(を)今(奔)張(と)一(萬)二(十)人

棟原製

早大出(版)部(う)り(五)十(三)年(に)終(念)に(終)結(す)が(ら)し(を)略(し)
来(る)

十二月五日(高田)は(津)に(招)う(る)四(府)境(の)香(堂)を(在)
二(番)高(田)友(と)今(日)も(は)行(作)加(多)政(と)大
出(版)部(一)と(終)結(す)

余(の)寄(信)と(收)り(を)英(文)大(日)本(北(海)道(編))
之(の)場(合)も(も)出(版)す(と)十二月十日

十二月十日(高田)は(津)に(招)う(る)四(府)境(の)香(堂)を(在)
其(七)に(皇)平(退)位(の)松(子)等(を)支(那)張(と)良(持)
从(右)と(笠)林(宗)の(兵)渡(り)す

圖書傳抄會雜誌凡十一月迄卷一連載の融金
と一七六十四回末

十二月廿三日安田の融金凡七巻分額に振り

九月以来偏り家ニ没頭し今融金専断所報

三十日出版成り

各所々々今ももろろ有る融金約五六万圓

細報を以て

余り融金下の文を挿入し今漢本額五六萬

九巻一巻融金

大日本印刷本印配南七分五厘早大出版

様原製

部配南七分

住友銀行の定期預金十二月三十万満期

つき更へ六ヶ月満期に入り此金額七巻

予の名義七千圓高の名義也本年分二回

子五百八十四圓也

十二月廿日住友銀行の定期預金預戻二千七十

圓四十六圓也先一紀仕融金の上九万圓

也

攝政官

以下全て

白紙

